昭和58年度

(第 16 回)

農林統計コース
実施要領

昭和 58 年 7 月

国際協力事業団
研修事業部

JICA
200
80
TA
LIBRARY

TA
JR
83−52

国際協力事業団
受入月日 '84. 5. 22 / '86. 7. 20 | 000
登録No. 106808 | 480 / 7A

目　次

1. コース名等 …… 1
2. コースの目的・背景 …… 1
3. 到達目標 …… 1
4. 研修項目・研修方法 …… 2
5. 研修員参加資格要件 …… 5
6. 研修の実施体制 …… 6
7. 研修・宿泊施設等 …… 6
8. 研修教材・資機材 …… 7
9. 研修付帯プログラム …… 8
10. 研修の評価 …… 9
11. その他 …… 9

付表－1　農林水産統計コース国別，年度別参加実績表 …… 10
付表－2　昭和58年度海外集団研修統計コース研修日程（案） …… 11

JICA LIBRARY
1056550[5]

1 コース名等

1) コース名

和　文：農林統計コース

英　文：GROUP TRAINING COURSE IN AGRICULTURAL STATISTICS

2) 研修期間

昭和58年8月4日から同年10月31日まで（83日間）

3) 定　　員……15名

2 コースの目的・背景

1) コースの目的

この研修は，主として，東南アジア，中近東，アフリカ，中南米及び韓国等の政府職員で，農林統計作成の企画的業務に従事する者を対象として，農林統計調査の基礎的知識，並びにわが国における農林統計作成の現状等について習得させることにより，参加国における農林統計の発展に寄与することを目的とする。

2) コースの背景

この農林統計コースは，日本政府の海外技術協力事業の一環として実施されているもので，昭和42年度に第一回が実施され，昭和44年度からは毎年継続して実施されている。初めは主にアジア諸国を対象として実施してきたが，近年ではアフリカ，中近東及び中南米諸国からも研修参加希望国が急増し，昭和57年度（第15回）までの研修参加国は34カ国，受講者は延べ198名となっている（付表－1，農林水産統計コース国別，年度別参加実績表を参照）。

3 到達目標

1) コース全体の到達目標

(1) 農林統計の種類と作成主旨の明確化

(2) 主旨に即した農林統計作成の具体的手続（方法）の理解

(3) 現地研修の強化による具体的な講義内容の理解と習得

2) 主要課目の到着目標

(1) 標本理論及び推測統計手法の取得

(2) 小地域統計の作成と分析方法

(3) 耕地及び作付面積求積の方法と収量調査方法の習得

(4) 農家生産構造の解明

(5) セミナーの強化による研修課目理解の徹底

4. 研修項目・研修方法

1) 研修項目及び担当講師

総　論

ア. 世界の農業と統計	国連アジア太平洋統計研修所	川野昭平
イ. 日本の農業	農林水産省大臣官房調査課	片受　弘
ウ. 日本の統計行政	行政管理庁国際統計課	家田博行
エ. 農林水産統計の組織	農林水産省経済局統計情報部	道川恵治
オ. 統計調査の理論と方法	農林水産省経済局統計調査部	高津頼吉

各　論

ア. 農林統計業務の概要	農林水産省経済局統計情報部	二石清春
イ. 農業動態調査	農林水産省経済局統計情報部	吉田泰用
ウ. 農林業センサス農家調査	農林水産省経済局統計情報部	川崎陽一郎
エ. 農林業センサス農家調査	農林水産省経済局統計情報部	大橋邦正
オ. 農林業センサス集落調査	農林水産省経済局統計情報部	桜井　望
カ. 地域統計	農林水産省経済局統計情報部	弘田澄夫
キ. 畜産調査	農林水産省経済局統計情報部	長尾了一
ク. 林業統計調査	農林水産省経済局統計情報部	藤原弘基

ク．経済統計業務の概要	農林水産省経済局統計情報部	鎌倉一郎
コ．農家経済調査	農林水産省経済局統計情報部	野上博尚
サ．生産費調査	農林水産省経済局統計情報部	西東秋男
シ．農村物価統計調査	農林水産省経済局統計情報部	後藤仁一
ス．農業所得統計	農林水産省経済局統計情報部	石井三紀男
セ．電算機の利用	農林水産省経済局統計情報部	大森洋昌
ソ．電算機を利用した統計の検索と分析	農林水産省経済局統計情報部	氏家重吉
タ．作物統計業務の概要	農林水産省経済局統計情報部	鈴木　林
チ．面積調査	農林水産省経済局統計情報部	宮川稔男
ツ．リモートセンシング	リモートセンシング技術センター	
テ．作物調査試験	農林水産省経済局統計情報部	細川　皓
ト．被害調査	農林水産省経済局統計情報部	湯川正晃
ナ．作況調査	農林水産省経済局統計情報部	筒井　宏
ニ．畜産統計業務の概要	農林水産省経済局統計情報部	岩瀬　弘
ヌ．野菜調査	農林水産省経済局統計情報部	中西繁治
ネ．果樹調査	農林水産省経済局統計情報部	大越敏夫
ノ．工芸農作物調査	農林水産省経済局統計情報部	松本邦雄
ハ．市場調査	農林水産省経済局統計情報部	相星和也
ヒ．流通情報サービス	農林水産省経済局統計情報部	後藤義行

2) 研修方法

研修課程は，講義，現地研修，セミナーより構成されている。

(1) 講　義

農林統計コースの講義は，２時間を１単位として実施し，大半は１～３単位の範囲で実施している。

ア．講師は所定のテキスト及びスライド等の視聴覚機材を利用して講義する。また，講師は主として農林水産省経済局統計情報部の職員並びに関係機関の専門官に依頼している（付表－２，昭和５８年度

海外集団研修統計コース研修日程表参照）。

イ. 研修における用語は，日本語及び英語を使用する。講義には英文テキストを研修員に予め配布する。日本語での講義の場合，国際協力事業団研修監理員の通訳を介して行う。

(2) 現地研修

現地研修は，講義の内容を深め，具体的に統計調査技術等を習得させるため，現地に出て見聞，実地調査を体験させるものである。しかし，総ての講義課目について実施することは困難のため，一応各課業務の中で特に必要を認める事項について実施する。

ア. 日本農業の実態と統計情報組織に関する現地調査

現地研修にあたり，関係農林水産省地方農政局，同統計情報事務所，出張所をはじめ関係市町村，関係団体を訪問し統計情報収集の組織的活動について研修する。

イ. 農家調査及び畜産調査

担当講師の指導により，研修員に予め農家調査及び畜産調査票を作成させ，この調査票を用いて農家に面接し調査技術，農家構造等を研修する。

ウ. 面積調査

一定地域内の圃場を選び研修員がそれぞれ耕地及び作物別作付面積の見積り調査を実施する。

エ. リモートセンシング

面積調査のため，航空写真の利用について研修員の関心が強いため，リモートセンシングセンター及びNAC社を訪問し，日本における宇宙衛星及び航空写真による面積調査の方法について受講する。

オ. 水稲の収穫量調査

講義で研修を受けた方法に従い，所定の調査票に基づき刈取箇所の選定，刈取り，脱穀作業を行う。更に予め用意された乾燥籾につ

いて籾摺り，選別秤量等一連の各種作業を行い，具体的に作物の収量調査について体系的な研修を実施する。

カ．農作物の流通サービス

農作物の流通業務を理解させるため，早朝に築地の中央青果市場を実地に見学するとともに，市場の機能について受講し，更に市場駐在室及び流通情報室を見学しその業務内容について受講する。

(3) セミナー

研修実施機関としては，研修員の母国における農林業の現状及び農林水産統計の作成の状況を事前に理解しておくことが，研修の効果を一層高められるとの考慮から各論の講義前に，研修員に持参させたカントリー・レポートについて説明を求めこの報告について討論を実施する。

また，各課業務の講義が終了した時点で担当講師全員と研修者との間で総括質疑の時間を設定し質疑の回答及び問題点の討議を実施し研修生の理解の徹底に務める。

6. 研修員参加資格要件

1) GENERAL INFORMATION (G.I) で示された参加研修員の資格要件は，下記の通りである。

(1) 相手国政府によって推薦された者であること。

(2) 農林統計の企画業務にたずさわる公務員である者。

(3) 大学卒業の学力及びそれと同等以上の学力を有する者。

(4) 原則として40才以下の者。

(5) 英語により話す能力及び書く能力が充分である者。

(6) 研修を実施するうえで肉体的・精神的にも健康である者。コース実施上妊娠中の女性は適切でないと考えられる。

2) 人選方法及び選考基準

参加割当国に対して日本大使館を通じ配布された本件コースのG.Iに基づいて相手国政府から提出された要請書（A₂フォーム）により，G.I記載中の資格要件を主たる選考基準として，国際協力事業団と農林水産省とが協議して研修員の人選を行う。

3) 割当国……18ヵ国

バングラデシュ，ビルマ，インドネシア，マレイシア，ネパール，パキスタン，フィリピン，スリランカ，タイ，エジプト，スーダン，トルコ，ガーナ，ケニア，リベリヤ，タンザニヤ，ブラジル，パラグアイ。

6. 研修実施体制

1) コース運営の仕組

この研修は国際協力事業団の委託により，社団法人全国農林統計協会連合会が農林水産省の企画，指導と国際協力事業団の協力を得て実施する。

2) 研修監理員の配置

国際協力事業団は，研修業務を円滑に遂行すべく，業務上の調整並びに通訳業務を兼ねた研修監理員を配置する。

7. 研修・宿泊施設等

研修場所：主に農林水産省海外中央研修室

住　　所：東京都千代田区霞ヶ関1－2－1

℡(03)501－1783

宿泊場所：国際協力事業団東京インターナショナルセンター

住　　所：東京都新宿区市ヶ谷本村町42番地の11

℡(03)267－2311(代表)

8 研修教材及び資機材

1) テキスト一覧表

1. 講義用テキスト（講義順による）

(1) The State of Japan's Agriculture

(2) Outline of Statistical Services in Japan

(3) Agricultural Statistics in Japan

(4) Country Report of Agricultural Statistics Course

(5) Methods of Sample Survey

(6) Annual Sample Survey Census of Agriculture

(7) Agriculture and Forestry Census in Japan

(8) Farming Community in Japan

(9) Livestock Statistical Survey in Japan

(10) Outline of Farm Household Economy Survey

(11) An Outline of Survey of Agricultural Production Cost

(12) Survey on Commodity Prices and Wages in Rural Villages

(13) Index Numbers of Rural Consumption Levels

(14) Agricultural Products

(15) Computer Basic Knowledge Application

(16) Some Example of Statistical and Analysis Using Electronic Data

(17) Crop Statistics Survey

(18) Survey on Horticulture

(19) Outline of M.A.F. Information Services for Perishables Foods Market

2. 講義用補助テキスト

(1) Farming Community Card

(2) Agricultural Community Questionnaire

(3) Agriculture and Forestry Farm Household Questionnaire

(4) Listing Sheet of Farm Household Western Part

(5) Listing Sheet of Agricultural Households other than Farm Household

(6) Forestry Region Survey, World Agriculture and Forestry Census

(7) Day Book for Households Economy Survey

(8) Area Survey

(9) Survey of Major Crop Production

(10) Survey of Crop Damage

2) 資　機　材

視聴覚機材としてスライド及び16mm映画を使用。

9. 研修付帯プログラム

国際協力事業団は，昭和58年8月4日を研修員の来日指定日とし，翌日東京インターナショナルセンターにて来日事務手続き及び滞在費等の支給に係る集合ブリーフィングを実施する。翌週8月8日より8月12日までは，日本での滞在に関しての日本事情の紹介を中心として下記のプログラムのオリエンテーションを実施する。

ジェネラルオリエンテーションプログラム

日	時　　間	内　　　容
第1日(月)	10:00～12:00	所長挨拶　JICA事業説明
	13:30～14:15	TIC業務等説明
	14:15～16:15	よりよい滞日生活のために
第2日(火)	10:00～12:00	日本の文化史
	13:30～14:30	日本の経済協力
	14:30～16:30	日本の人文地理
第3日(水)	10:00～12:00	日本の経済
	14:00～16:00	日本の行政機構
	16:15～17:15	日本紹介Film上映
第4日(木)	10:00～12:00	日本の言葉
	14:00～16:00	日本の教育
第5日(金)	9:00～13:00	都内見学(バス)

10 研修の評価

研修終了直前に，前もって各研修員に配布してあるGFNERAL EVALUATION SHEET及びファイナルレポートを提出させ解析し，研修終了直後に評価会を開催し，農林水産省，国際協力事業団，全国農林統計協会連合会の関係者及び講師と研修員との討論形式にて研修の成果について意見の交換を行う。

又，研修実施中に提出された各レポート等の内容も上記評価会の結果とともに総合的に評価される。

11 その他

特に記載の要なし

付表－1　　　農林水産統計コース国別，年度別参加実績表

	昭42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	計
〔アジア〕																		
インドネシア	1		2	1	1	2	2		1	2	2	2	2	2	2	1		23
フィリピン	1		1	2	2	2	1	1	2	2	1	1	1	2	2	1		22
タイ	2		1	1	1	1	1	1	1	2	1	2	2	2	2	2		22
パキスタン			2	1			1	1		1	2	1	2		2	1		1
マレイシア	2		1			1			2	2		1		1	1			11
スリランカ			1	1	1	1			1	2	1	1	1	1				11
ネパール	1		1	1		1	1		1	1	1	1			1	1		11
バングラデシュ							1	1		2		1	2		1	1		9
大韓民国	1		5							1						1		8
インド	1					1			1	1		1						5
ビルマ											1	1	1	1				4
ラオス					1		1			2								4
シンガポール	1				1													2
中華民国			4															4
クメール						1		1		1								3
（南ベトナム）			1	1														2
ブータン													1					1
〔アフリカ・中近東〕																		
イラン				1		1	1	1			1					1		6
エジプト								1		1	1					2		5
タンザニア					1					1		1				1		4
トルコ															2			2
エチオピア					1			1						1				3
リベリア													1					1
ガーナ														1		1		2
チュジニア														1				1
スーダン					1											1		2
リビア									1									1
〔中南米〕																		
ブラジル											1	1	1	2	1	2		8
コロンビア											1							1
パラグアイ													1					1
ペルー														1				1
チリ														1				1
メキシコ														1				1
アルゼンチン													1	1				2
計	10		19	9	10	11	9	8	10	21	13	14	16	18	14	16		198
備考			（農業センサスコース）											（水産統計コース）				

付表－2

昭和58年度海外集団研修統計コース研修日程（案）

〔8月〕

日	曜日	午前	関係課	午後	関係課	備考
1	（月）					
2	（火）					
3	（水）					
4	（木）	（来 日）		（来 日）		
5	（金）		JICA		JICA	
6	（土）					
7	（日）	（休 日）		（休 日）		
8	（月）	オリエンテーション	JICA	オリエンテーション	JICA	
9	（火）	〃	〃	〃	〃	
10	（水）	〃	〃	〃	〃	
11	（木）	〃	〃	〃	〃	
12	（金）	〃	〃	〃	〃	
13	（土）	〃				
14	（日）	（休 日）		（休 日）		
15	（月）	開講式	企画情報	オリエンテーション	企画情報	
16	（火）	日本農業の現状	官房	日本農業の現状	官房	大臣官房調査課片岡調査官
17	（水）	日本の統計行政	行管庁	農林水産統計の組織	企画情報	行管庁（国際統計課長秋田博行）
18	（木）	カントリーレポート	企画情報課	カントリーレポート	企画情報	
19	（金）	〃	企画情報	〃	企画情報	
20	（土）					
21	（日）	（休 日）		（休 日）		
22	（月）	現地研修			企画情報	東海農政局及び近畿農政局
23	（火）	日本農業の実態及び統計組織に関する現地調査			〃	（渥美半島）（大中之湖干拓地）
24	（水）					
25	（木）	世界の農業問題と統計	アジア太平洋統計研修所	世界の農業問題と統計	アジア太平洋統計研修所	アジア太平洋統計研修所川勝副所長
26	（金）	統計調査の理論と方法	企画情報	統計調査の理論と方法	企画情報	
27	（土）					
28	（日）	（休 日）		（休 日）		
29	（月）	統計調査の理論と方法	企画情報	統計調査の理論と方法	企画情報	
30	（火）	〃	〃	〃	〃	
31	（水）	〃	〃	〃	〃	

〔9月〕

日	曜日	午前	関係課	午後	関係課	備考
1	(水)	統計調査の理論と方法の総括質疑	企画情報	農林統計業務の概要	農林統計	
2	(金)	農業動態調査	農林統計	農業動態調査	〃	
3	(土)	(休日)		(休日)		
4	(日)	(休日)		(休日)		
5	(月)	農林業センサス農家調査	農林統計	農林業センサス農家調査	農林統計	
6	(火)	農林業センサス林業調査	〃	地域統計	企画情報	
7	(水)	畜産統計調査	〃	畜産統計調査	農林統計	
8	(木)	面積調査票の作成	〃	面積調査票の作成	〃	
9	(金)	面積調査票の作成	〃	水産統計調査	〃	
10	(土)	(休日)		(休日)		
11	(日)	(休日)		(休日)		
12	(月)	現地研修			農林統計	
13	(火)	現地研修			〃	中国四国農政局
14	(水)	農業調査を中心に(含む畜産基本調査)			〃	(岡山)
15	(木)	(休日)				
16	(金)	現地研修のとりまとめ	農林統計	農林統計業務の総括質疑	農林統計	
17	(土)	(休日)		(休日)		
18	(日)	(休日)		(休日)		
19	(月)	経済統計の概要	経済統計	経済統計の概要	経済統計	
20	(火)	農家経済調査	〃	農家経済調査	〃	
21	(水)	生産費調査	〃	生産費調査	〃	
22	(木)	農村物価統計調査	〃	農村物価統計調査	〃	
23	(金)	(休日)		(休日)		
24	(土)	(休日)		(休日)		
25	(日)	(休日)		(休日)		
26	(月)	農業所得統計	経済統計	経済統計業務の総括質疑	経済統計	
27	(火)	電算機の利用(電算室)	管理	電算機の利用(電算室)	管理	
28	(水)	電算機を利用した統計の検索と分析	企画情報	作物統計の概要	作物統計	
29	(木)	作物統計の概要	作物統計	面積調査	〃	
30	(金)	面積調査	〃	現地研修の準備	〃	

〔10月〕

日	曜日	午前	関係課	午後	関係課	備考
1	(土)					
2	(日)	(休日)		(休日)		
3	(月)	現地研修(リモートセンシング技術センター		六本木)		
4	(火)	現地研修(耕種調査)			作物統計	
5	(水)	現地研修とりまとめ	作物統計	作物調査試験	作物統計	
6	(木)	作物調査試験	〃	被害調査	〃	
7	(金)	被害調査	〃	作況調査	〃	
8	(土)					
9	(日)	(休日)		(休日)		
10	(月)					
11	(火)	作況調査	作物統計	現地研修の準備(収穫調査)	作物統計	
12	(水)	現地調査			〃	茨城統計情報事務所下妻出張所
13	(木)	(収穫調査)			〃	
14	(金)	現地研修とりまとめ	作物統計	作物統計業務の総括質疑	〃	
15	(土)					
16	(日)	(休日)		(休日)		
17	(月)	園芸統計の概要	園芸統計	野菜調査	園芸統計	
18	(火)	野菜調査	〃	果樹調査	〃	
19	(水)	工芸農作物調査	〃	市場調査	〃	
20	(木)	現地研修(築地市場情報室)				
21	(金)	園芸統計業務の総括質疑	園芸統計	流通情報室(大森)	企画情報	
22	(土)					
23	(日)	(休日)		(休日)		
24	(月)	現地研修			企画情報	山梨統計情報事務所
25	(火)	(日本農業の実態及び統計組織に関する現地調査)			〃	
26	(水)	エバリエーション	企画情報	エバリエーション	〃	
27	(木)	エバリエーション	〃	エバリエーション	〃	
28	(金)	資料収集整理	〃	閉講式	〃	